

會 務

第22卷第4號 昭和11年4月

役 員 會

第3回役員會 (昭11.3.23)

出席者：井上會長，平井，辰馬兩副會長，小野，河口，蒲，菊池，後藤，萩原，平山，藤井，宮長，山田各常議員，古川主事，田邊，那波，眞田，青山各前會長

1 主務官廳より3月14日付を以て定款変更の認可ありたる旨報告す。

2 振興委員會第1,第2,第3部委員を3號會誌の其他記事欄記載の通り依頼せる旨報告す。

3 第3回工學會大會に際し會員懇親會を開催することとせり。

4 ハンガリー通商省道路局と會誌を交換することとせり。

5 第3回工學會大會に於ける土木部會の各部司會者並に進行係を依頼せり(氏名省略)。

6 増員常議員6名の選舉投票日を4月10日と決定せり。

7 常議員選舉投票の開票日を4月13日とし開票立會の役員詮衡は會長に一任せり。

8 日本工學會より申出の第4回工學會大會開催期を皇紀2600年(昭和15年)としたる場合同大會を第2回萬國工業會議として開催することに同意することとす。

9 5月開催の春季視察旅行は箱根専用道路及宇佐美隧道工事を視察することとし計畫を理事一任とせり。

10 中山秀三郎君より寄附申出の土木賞牌基金500円並に事業基金2000円は之を受領することとせり。

11 明治以前日本土木史は絶版とせず相當書店へ有利なる條件にて販賣を引受けせしむることとせり。

12 島政吉君外3名を會員に伊藤榮喜君外27名を准員に伊藤正次君外12名を學生員として入會を承認し、伊藤茂利三君を准員より會員に近藤博君外3名を學生員より准員に転格を承認せり。

准員福田鋼君は死亡し會員橋忠志君外3名准員淺井光義君外4名の退會を許可せり。

編 輯 委 員 會

第4回編輯委員會 (昭11.4.0)

出席者：藤井編輯長，岡田，瀧淵，成瀬，野口，福田各委員

1 第22卷第3號所載論說報告に對する討議依頼先を決定せり。

2 第22卷第3號所載工事寫眞，論說報告，彙報抄録に對する謝禮を決定せり。

3 第3回工學會大會の論文は大會論文集として5月會誌とは別途に刊行する事に申合せり。

4 第3回工學會大會論文の他雜誌転載の願は論文集發行後著者の許しを経て許可する事とせり。

5 論文集の別刷は著者に寄贈せず，別刷希望の著者には實費にて応ずる事とせり。

6 第22卷第4號に下記工事寫眞及び抄録を追加せり。

工事寫眞：名倉發電所

抄録：Zagrebに於ける銲接鐵道橋(住友)，アーチの挫屈に關する問題(住友)，急斜水路の水理(米屋)，アーメンの簡易解法(糸川)，波形コンクリート屋根の強度(糸川)，Hudson河橋梁の新架設法(糸川)，人工地震を用ひた構造物震動の研究(糸川)，薄き平板床の強度試験(傍島)，アルミ合金を使用した掃海船(傍島)，スパン150呎の銲接道路構橋(傍島)，河水の酸濃度を減ずる一方法(傍島)，堰庄土堰堤の土壤締固調整(玉置)，下水隧道で行つた礫の水力搬出(吉藤)，土圧に依るGrand Coulee橋々脚の傾斜(吉藤)

7 第22卷第5號登載原稿を下の通り決定せり。

論說報告：フェノライト材鑿の光弾性消光係數に及ぼす影響に就て(會，工博，久野重一郎)，錦帶橋の沿革と構造(會，工，大野唯糊)

討議：長崎港修築工事報告(會，松田健作)，同上(著，會，工，三好貞七)

彙報：撓角法によるラーメン解法の用語及び標準記號(會，工博，福田武雄)，偏心荷重に對する鉄筋コンクリート矩形断面決定図表(會，工，武田英吉)，里島發電所工事概要(會，山本俊英)，揖斐川川上發電所工事概要(會，後藤徳次郎)，矢作川笹戸發電所工事報告(會，工，渡邊甲)

抄録：San Gabriel第1號堰堤工事の変更設計(玉置)，1935年に於ける獨逸國有鐵道構造物(草間)，Rotterdam港岸壁の發達(比田)，コンクリート道路の横

目地合釘使用に關する静力学的考察(藤森), コンクリート舗裝の進歩(平尾), 瀝青マカダム工法(平尾), 米國に於ける簡易舗裝工法の現状(平尾), 土堰堤の土壤調節(玉置), Bordeaux 港の埠頭改築(比田), 佛國 Rouen 港(比田), 鋼索に依る石堰堤の補強(玉置), 下水汚泥に厨芥を混じたる場合の消化作用(松見), 撒氣盤に關する研究(松見)

特許抄録: 10 件及登録實用新案

土木學會振興委員會

第 3 部會第 1 回委員會(昭 11-3-13)

出席者: 井上會長, 平井副會長, 野坂委員長, 小澤, 太田尾, 奥田, 須之内, 瀬戸, 千秋, 瀧山, 立花, 南保, 本間, 松井各委員, 小野寺庶務主任, 五十嵐編輯主任

二三の新顔を加へ, 氣を新たにして 3 月 13 日本年度第 1 回の集合をなす。井上新會長の挨拶あつて後, 成可く定款改正に觸れざる範圍内に於て更らに存分の活躍をなさん事を希望すとの鞭撻の辭を特に附言されたり。それより直ちに常議員 6 名の増加に伴ふ選挙に關し種々協議を行ふ。野坂委員長任期満了を期とし委員長決定の爲投票の結果太田尾委員當選す。太田尾委員座長となり引続き選挙事項に付き打合せをなし小澤(伊藤委員代理), 須之内, 立花, 野坂, 太田尾の各委員が第 3 部會本來の趣意に基き新役員には人物, 時代, 専門の 3 方面を考慮し前選挙の結果による缺を補はん事を期し有志會に出席することとし散會す。

第 2 回委員會(昭 11-4-9)

出席者: 太田尾委員長, 伊藤, 緒形, 岡崎, 奥田, 佐藤, 須之内, 瀧山, 立花, 南保, 野坂, 服部, 松井各委員, 小野寺庶務主任

太田尾委員長より前回の會合打合せ事項, 選挙詮衡有志會合に於ける顛末に就て簡單なる報告あつて後, 本年度第 3 部會の行動方針に關し相談をなす。大体に於て前年度の提案, 決議事項等を逐次實現さすべく更らに詳細なる具体案を練り, 是が作成の上委員會に提出實現方を促進する事に意見の一致を見たり。

1. 會誌分冊發行促進方に關する決議

(1) 編輯に關しては本部會は充分の援助を惜まず。(2) 巻間發行の類似雜誌に對しては, 編輯, 販賣方法等に付き統制を計る事。

2. 技術資格試験施行に關する事項に關しては伊藤剛君, 須之内文雄君, 瀧山養君, 野坂孝忠君

3. 都制案に關しては奥田秋夫君, 南保賀君, 松井達夫君の各委員に依頼し案の作成を急ぐ事とせり。

次回は 5 月上旬開會の豫定にして上記の案に對し検討をなす事を打合せ散會す。

維新以前日本土木史編纂委員會

第 36 回委員會(昭 11-3-18)

出席者: 眞田副委員長, 名井, 那波, 安藝, 茂庭, 古川, 眞島, 小川, 江澤, 坂井, 前川, 島各委員, 高柳, 栗原, 渡邊, 小川, 坂本各囑託

本月の編纂事務その他の報告をなし, 次の事項を協議せり。(1) 明治以前日本土木史の印刷部数は 2300 部とすること。(2) 裝釘は従前決定の通りとすること。

第 3 回工學會大會土木部講演委員會

第 5 回委員會(昭 11-3-16)

出席者: 井上會長, 辰馬副會長, 大河戸委員長, 藤井工學會講演委員, 赤木, 青木, 岩澤, 河口, 後藤, 關, 田中, 高橋, 萩原, 平山, 三浦, 宮本各委員, 瀧淵編輯委員, 中川前會長, 柴原書記長

1. 土木學會關係講演部會に司會者及び進行係を依頼する事に申合せり(氏名省略)。

2. 土木學會關係講演部會プログラムに就き講演者及講演時間の変更を爲したり。

3. 講演前刷は 300 部を印刷する事とせり。

4. 工學會理事長 ラヂオ講演の土木關係資料を審議し次の如き資料を送付する事とせり。

土木技術界に於ける最近の狀勢を通觀しますと先づ交通に關する問題に於て著しい發達を遂げました。鐵道に於ては起工以來 16 年の日子を費した世界的難工事丹那隧道を完成し更に本州九州を連絡する關門海底隧道の計畫を進めて居ります。現在鐵道及軌道の總營業料は 2 萬 6 千餘料に達し近年は主要幹線の大系の整備に努力して居ります。又都市交通緩和の爲に高速交通機關の普及に努め地下鐵道は現在東京に於て 8 料, 大阪に於て 4.5 料の開通を見て居ります。

道路交通に於ては改良されたる道路延長は昭和 9 年現在に於て 10 萬料に達し其の内舗裝されたる部分は約 1 萬料にしてその面積を昭和 7 年當時に比すれば約 10 倍に達して居る状態であります。港湾工事に於ては從來横濱神戸大阪等の重要港湾に主力を注いで來ましたが,

最近は地方産業界の發達に對應する爲地方港灣の施設に盡力しつつあり昭和 7 年以降之が竣功のもの 18 港目下工事中のもの 46 港を算して居ります。本邦は又年々水害の爲に莫大なる損害を被るに鑑み昭和 9 年迄に利根川、信濃川、荒川の外 43 箇川の改修を爲し更に近年は全國 91 箇川の改修に着手し之と同時に砂防工事に大いに努力して居ります。又利根川には昨年の大洪水に鑑み新たに延長 28 軒の大放水路を開鑿して洪水を直接東京灣に吐かしめんとする歐米各國に其の例を見ない大河川工事の計畫を進めて居ります。橋梁工事に於ては總ての型式の橋梁が全國各地に架設せらるゝに至り又近年は電氣熔接工法が応用せられて來ました。而して基礎工事に於ける淨函工法は既に普通一般の工法となつて居る状態で有ります。上水道工事は全國に普及されました。又水力發電に於ては現在 350 萬キロワットの電力が發電されて居りますが水力發電工事及上水道工事に於て最も重要視されて居る堰堤工事に於ては我國は世界有数の地震國ではありますが高堰堤として既に完成せるもの 75 を算し尙京都市水道の小河内堰堤に於ては高 149 米と言ふ世界第 2 の堰堤が計畫されて居ります。都市計畫に於ては既に 400 有餘の都市に都市計畫法が適用せられ現在及び將來に對する重要施設の計畫及び事業が爲されて居ります。

日本工學會記事

○昭和 11 年 3 月 23 日日本工業俱樂部に於て日本

工學會評議員會を開催し一般會務の報告あり次で同日の社員總會に提出すべき事項を協議せられたり。

○昭和 11 年 3 月 23 日日本工業俱樂部に於て日本工學會社員總會を開催し下記の報告をなし何れも異議なく承認せられたり。

- (1) 昭和 10 年度日本工學會事務報告, (2) 同年度收支決算及貸借對照表並に特別會計收支決算報告, (3) 同年度事業報告, (4) 昭和 11 年度日本工學會收支豫算の件

土木學會關西支部記事

○昭和 11 年 3 月 18 日午後 5 時より中央電氣俱樂部に於て第 3 回役員會を開き 支部長清水烈君外 10 名出席下記事項を協議せり。

- (1) 春季見學會の件, (2) 第 7 回土木工學研究會講師の件

その他の記事

○昭和 11 年 3 月 25 日増員常議員選舉投票に關する書類を全會員に發送せり。

○昭和 11 年 3 月 24 日土木學會誌第 22 卷第 3 號を發行成規の手續を了し 3 月 25 日全會員に配布せり。

○昭和 11 年 4 月 2 日中山秀三郎君より賞牌基金及事業基金として金 3,500 円の寄附あり之を受領せり。

入會及転格會員

(昭 11-3-23 手續了)

氏 名	勤 務 先	氏 名	勤 務 先	氏 名	勤 務 先
會 員 (入 會)					
島 政 吉君	信濃電氣株式会社	本 田 一 郎君	豊橋市役所	杉村誠之介君	内務省土木局第一技術課
古 田 泰 介君	山梨縣廳土木課	山 口 義 夫君	關西急行電鉄會社		
准 員 (入 會)					
伊 藤 榮 喜君	鬼怒川水力電氣會社	久 保 田 進君	王子製紙株式会社	清 水 義 正君	福井市土木課
入 江 繁 樹君	平安北道廳土木課	小 西 大 一君	山陽水力電氣會社	坪内三千三君	古川拓殖會社
小 澤 要 作君	鉄道省長岡建設事務所	吳 石 煥君	平安北道廳土木課	手塚不二雄君	關西四平街建設事務所
織 田 謙 造君	平安北道廳土木課	近 藤 愛 知君	静岡縣廳土木部河港課	中 川 富 二君	平安北道廳土木課
大 川 孝君	兵庫縣無水町水道部	佐 野 貞 義君	長谷川板本組	堀 内 澤 郎君	關西四平街建設事務所
岡 本 孝君	日本ニッケル時報局	坂 本 正君	大倉土木株式会社	松 本 敏 雄君	九州電機株式会社
柏 原 清 助君	關西四平街建設事務所	齋 藤 榮君	關西四平街建設事務所	村 田 善 次君	平安北道廳土木課

湯川利勝君 白石基礎工業會社
 柚木辰男君 滿鐵四平街建設事務所
 河村 莊君 東京市水道局給水課

高野祥二君 東京電氣化学工業會社
 原口 豊君 忠清南道廳土木課
 廣岡與三次君 "

古谷信夫君 忠清南道廳土木課

学 生 員

伊東正次君 武藏高工
 川上正三君 北海道帝大
 佐々木勇之助君 武藏高工
 佐藤 導君 徳島高工
 中 忠 雄君 熊本高工

古田二郎君 熊本高工
 増永 巖君 "
 丸田彦視君 "
 三宅健一君 北海道帝大
 村上冽四郎君 武藏高工

森 敏 博君 日大専門部
 森田正敏君 徳島高工
 八十嘉太郎君 武藏高工

會 員 (転 格)

伊藤茂利三君

准 員 (転 格)

近藤 博君 菅 明君 戸田 晃君 馬場達雄君

土木学会々員

(昭 11.3.23 現在)

會 員	准 員	学生員	特別員	賛助員	合 計
2709	2501	633	2	18	5862

図書及び雑誌

(昭和 11 年 3 月中)

交 換

建築と社會 第19輯第3號 日本建築協會
 業務研究資料 第24卷第4~7號 鐵道大臣官房研究所
 道路の改良 第18卷第3號 道路改良會
 工 政 11年2月189號 工 政 會
 機械學會誌 第59卷第227號 機 械 学 會
 港 灣 第14卷第3號 港 灣 協 會
 工業化学雜誌 第39編第3册 工業化学會
 Proceedings, Volume 62, No. 2, American Society
 of Civil Engineers.
 都市問題 第22卷第3號 東京市政調査會
 鋸接協會誌 第6卷第1號 鋸 接 協 會
 機械學會論文集 第2卷第6號 機 械 学 會
 動 力 昭和11年2月 日本動力協會
 日本鑛業會誌 第52卷第610號 日本鑛業會誌
 滿洲技術協會誌 第13卷第83號 滿洲技術協會
 日本建築士 第18卷第2號 日本建築士會
 水道協會雜誌 第34號11年3月 水 道 協 會

資 源 第6卷第3號 資 源 局
 工業化学雜誌歐文別冊第39卷第3號 工業化学會
 鉄 と 鋼 第22年第2號 日本鉄鋼協會
 電氣學會雜誌 第56卷第3册 電 氣 学 會
 帝國鐵道協會々報第37卷第3號 帝國鐵道協會
 建築雜誌 第50輯第610號 建 築 学 會
 衛生工業協會誌 第10卷第2號 衛生工業協會
 技術日本 163號 3月號 日本技術社
 造船協會々報 第517號 3月號 造 船 協 會
 滿洲技術協會誌 第13卷第34號 滿洲技術協會
 日本鑛業會誌 第52卷第611號 日本鑛業會
 日本建築士 第18卷第3號 日本建築士會
 工 政 第190號 工 政 會
 工業化学雜誌 第39編第4册 工業化学會
 A Magyar Mernok, es Epitesz Egylet Kozlonye,
 LXX, Kotet 7-10 szam, Societa Ungh, dezli
 Ingeneri ed Architetti.

寄 贈

土木業協會々報 第62號 2月號 土木業協會
 發電水力調査概況(第6回)10年10月 逕信省電氣局

下關港擴張計畫概要 昭和11年1月 港 灣 協 會
 セメント界彙報 3月號 第336號 { 日本ポルトランド
 セメント同業會

鑄物 第8卷第3號 日本鑄物協會
 土木建築雜誌 第15卷第3號 シビル社
 工學彙報 {第10卷第6號 九州帝國大學工學部
 {第11卷第1號
 工學 第259號3月號 東京工學社
 工業現勢 第5卷第3號 東京工業大學
 Excavating Engineer Vol. 30, No. 1 三井物産機械部
 學報 第5卷第2號 東京工業大學
 工學院同窓會誌 第38卷第3號 工學院同窓會
 昭和11年3月21日河内大和強震概要 中央氣象臺
 セメント工業 昭和11年3月 セメント工業社
 區劃整理 第2卷第3號 土地區劃整理研究會
 マツダ研究時報 第11卷第1號 東京電氣株式會社
 總型錄 第10版 服部時計店
 コンクリート總覽 第1卷 コロナ社
 國立公園 第8卷第3號 國立公園協會
 工事畫報 第12卷第3號 工事畫報社
 大・阪港論集 大阪都市協會
 鉄筋コンクリート構造 第3卷 コロナ社
 帝國學士院紀事 第12卷第2號 帝國學士院紀事
 三菱電機 第12卷第2號 三菱電氣株式會社
 日立評論 第19卷第3號 日立評論社
 利根 第2卷第3號 利根製作營業所
 エンジニア 第159號2月號 都市工學社
 鐵道技術 第10卷第4號 鐵道技術社
 東京土木建築業組合報 第9卷第3號 東京土木建築業組合
 橋梁工學 (工學全集) 成瀬勝武
 セメント工業 昭和11年4月 セメント工業社
 駿工 第12卷第3號 日本大學駿工會
 黃河の治水學的諸考察 河合秋一
 地震觀測報告 昭和10年第3冊 東大地震研究所
 セメント微粉末測定共同試驗報告書 其2
 日本ポルトランドセメント業技術會
 水曜會誌 第8卷第10號 水曜會

購 入

Der Bauingenieur, Marz 1936, 17 Jahrgang, Heft
 7-10.
 Beton und Eisen, Marz 1936, 35 Jahrgang, Heft
 4-5.
 Die Bautechnik, Marz 1936, 14 Jahrgang, Heft

地震研究所彙報 第14號第1冊 東大地震研究所
 G. S. News Vol. 10, No. 3 日本電池株式會社
 內務省橫濱土木出張所長木津正治氏よりの寄贈圖書
 (下記30冊)
 船用機關學 增田知藏著
 東京石川島造船所50年史
 海運論上卷 伊藤重次郎著
 コルソン氏交通政策, 世界經濟叢書第1冊
 海運及び海運政策, 最近經濟問題卷14 堀光翁著
 訂正增補國民經濟學原論上卷 法學博士津村秀松著
 " 下卷 神戸高等商業學校教授津村秀松著
 交通論 早稻田大學教授伊藤重次郎著
 造船學講義 工學士武田甲太郎著
 造船學全 " 橫田成年著
 鉄及鋼の組織並に其応用 " 宮崎茂三著
 岩石學教科書 " 山崎直方著
 改訂天文講話 理學博士橫山又次郎著
 創業50年史 小野田セメント製造株式會社
 昭和5年靜岡縣御巡幸記錄
 創立25週年記念論文集 橫濱貿易協會
 南洋廳施政10年史 南洋廳
 大谷嘉兵衛傳
 加越能維新勤王史略
 建武之中興 建武中興六百年記念會神奈川縣支部
 門司市史
 University of Illinois Bulletin.
 Papers and Discussions.
 Table of minerals rocks and geology.
 Technische Traume.
 The marine steam engine.
 Technologic papers of the bar of standards.
 Altitude, azimuth and line of position.
 Aus Natur und Geiftsmelt.
 Physische Meereskunde.

6-11.

Engineering News-Record, February 1936, Vol. 116, No. 6-10.

Le Genie Civil, February 1936, CVIII, No. 7-11.

會員 景元 涼君，溝田次雄君の訃報に接す。本會は恭しく哀悼の意を表す。

准員 福田 綱君の訃報に接す。本會は恭しく哀悼の意を表す。

會

第 2 卷第 4 號 昭和 11 年 4 月

幸辰

第 3 回工学会大會記事

躍進日本の 陽春の 候を期し第 3 回工学会大會が 4 月 4 日より 8 日迄の 5 日間東京帝國大学構内及び東京附近各地に於て盛大に催された。日本鑛業會、土木学会、造船協會、工業化学會、電信電話学会、機械学会、日本鑄物協會、日本鉄鋼協會、火兵学会、建築学会、衛生工業協會、電氣学会、照明学会、日本冷凍協會、熔接協會の 15 学協會々員よりなる工学会々員参加者 6000 餘名を算し、第 1 日の 4 日は東京帝國大学講堂に於て午前 9 時より總會があり、15 学協會夫々の代表講演が行はれ、本會よりは井上會長が“輓近に於ける本邦土木事業の情勢”に就き講演された。午後 6 時半からは上野精養軒に於て晚餐會が開催され参加者 500 餘名を數へた。5 日、6 日は大會の主要部分を占める講演部會が催されたが、之こそ躍進工業日本の學術精華を一堂に集めたもので各部會々場には夫々専門の理論がはなばなしく展開された。土木学会に於ては第 3 部會 B 橋梁及構造物の部、第 4 部會一般土木の部、第 5 部會鉄道の部を擔當して提出論文の發表を司つたが、この外に機械学会擔當の第 2 部會 A 応用力学の部、第 24 部會材料の部にも我土木学会々員の發表論文があつて、土木学会々員の提出論文數實に 200 を算し本大會提出論文數中の大部分を占めたのであつた。部會は何れも午前 9 時閉會されたが、會場は何れも満員の盛況で我土木学会としては空前の事であつた。而も橋梁及構造物或は水力發電、堰堤の講演部會に於ては満員の爲入場出來ず會場の外から場内の様子を窺つてゐる様な聴講者もあつて誠に御氣の毒な情景を展開した。部會講演は何れも 15 分~20 分と時間を限られ充分意を盡される事は出來なかつたが、短い時間に各講演の要旨を簡明に説明され、中には映畫幻燈を交へ説明の助けとされた爲聴講者は絶えず新しい緊張を以て新しい理論に聴き入る事が出來たのであつた。橋梁及構造物の部並に応用力学の部にはジャバ工科大学教授の Bijlaard 氏の論文發表もあり、河川、道路、都市計畫の部には滿洲國よりも多數の論文が發表され、東洋土木界に大いに貢献する所があつた。

4 日、5 日、6 日には更に工業展覽會が開催されてゐて大講堂、第 3 食堂及び附近屋外に國産を主とせる優

良なる機械、器具、材料類其他研究參考資料が出陳せられ、一般の參觀に供せられた。

土木学会懇親晚餐會記事

4 月 6 日講演部會の後を受け午後 6 時より日比谷三信ビル東洋軒に於て土木学会懇親晚餐會が開催せられた。今回の晚餐會には大會参加の爲に各地方より上京せられた多數地方會員の參集を見、本會晚餐會としては近年にない盛會振りを示した。出席會員 134 名、食後井上會長より今回大會の盛會を祝ふ挨拶あり、大要次の如く述べられた。

“第 3 回工学会大會に際して地方より多數會員の來會致されたる機會に會員互に意見の交換を爲し親睦を厚くする意味に於て本日茲に土木学会懇親晚餐會を開催致しました所斯くも多數出席下され、本會としては誠に空前の事と御禮を申上げる次第であります。大會は後 2 日の見学を残し、天候にめぐまれ盛會裡に經過致したる事は同慶の至りに耐えない次第であります、本會として誠に快心の至りは本會が本大會の principal part を占めた事であります。即ち大會に提出せられた論文數 700 のうち我が土木学会の論文は 200 を算したのであります。従つて全部の講演が出來ず、その一部分を數箇所の會場に分つて行はねばならなかつたのであります、提出せられた論文は何れも立派な、斬新な而も有益なものでありまして本會々長として深甚の感謝を致す次第であります。之が現土木界に與へた影響は誠に大でありましたが、更に將來我が土木界の啓發に對する効果は甚大なるものがあると考へるのであります。其の他夫々役員の方又講演部會には司會者、進行係等を爲し下された方々には大會の準備、進行に御盡力下され、厚く謝意を表する次第であります。願はくば第 4 回大會には、之は萬國工業會議となるかも知れませんが、今回より一層奮勵して本會の名譽をいやが上にも發揮せん事を祈ります。尙本日の來會者には地方の方が非常に多いので学会の最近の事情を申し述べる”

と 2 月總會に於ける定款及び規則の改正要綱を説明し特に地方會員の鞭撻を願ふ所があつた。次に地方會員を代表して直木滿洲國々道局長より在京の諸氏の盡力に對する感謝の辭が述べられた。

之より井上會長の指名にてテーブル・スピーチに移り、先づ北大教授小野諒兄氏は大會を毎年 1 回開催致

たき希望意見を述べ、九大教授西田晴氏及び福岡縣土木部長坂本一平氏は北九州の最近の事情に就き御披瀝に及び、京大教授龍山興氏は今次大會に若き技術者多數講演されたるを喜び、世界地図改造英雄論を提言して若き英雄の多數輩出されん事を希望された。代つて南滿洲工業専門学校教授淺野好氏は滿洲國に土木學會支部設置に關する希望を述べられ、宮長平作常議は次回大會に會員1萬名突破を目標に會員獲得に力盡すを願ふ處があつた。次で熊本高工教授北澤吉氏のスピーチがあり、直木倫太郎氏更に指名され、那土木事業の内情を説明し、支那が現在盛に土木事業を行つてをるが、其には外國顧問が實に140名内ト参加してをり、我國からは1名も顧問が出てゐない事情に就き説明をされ、我土木學會東亞部の活躍と共に將來之が進出に乗り出すべき必要を述べられた。最後に内田莊一常議員が陸軍技術本部の最近の事情を説明され、之にてテーブル・スピーチを終り、古川前會長發聲の下に土木學會の將來の發展を祈り萬歳を三唱し、乾杯して土木學會懇親晚餐會を終つた。時に8時であつた。

見學會記事

7日、8日の2日間新宿御苑外：8箇所に分れ見學會が催された。土木學會は下記の4箇所の見學會の幹事に當つたが、本會々員はこの外各所の見學會に参加し、見學會参加本會々員數400餘名であつた。

第14班、東京港 4月7日午後0時50分、豫定地蔵公園入口に參集せる本見學参加會員は、聯合工學會の見學にふさわしく各學會所屬の會員を網羅して160名の多數に及び、定刻1時20分、竹芝町棧橋にて、東京市當局の好意により本港に關する説明図表の配布を受け、特に用意されたるランチ4隻に分乗、森田港灣部支術課長以下夫々當局員の案内をうけつゝ港内諸施設の視察につき、大東京の表玄關、近年頗る飛躍を遂げし東京港への認識を深め、一巡の後第3臺場の上陸、今尙原型を存するといふ葛藤以來の史跡に接して暫し當時の回想に耽つた。

こゝにて茶菓の饗應をうけ、森田課長より東京港の計畫の概要其他につき説明あり、青木本會員、参加會員を代表して謝辭を述べ、3時半再び乗船、更に港内の視察を続け3時築地中央卸賣市場棧橋の上陸、これより市場へ案内され、完備せる大冷蔵庫、バナ、醱酵室等を視し、見學、後集會所にて桑原監理課長より本市場の機構、

目的、取扱數量等に就て説明あり、之れに對し小野寺氏代表して謝辭を述べ、午後4時15分、斯くして短時間ながらもよく見學の目的を果して解散した。

第19班、三河島汚水處分場 4月7日午後1時集合、参加者54名。1時半場長兒玉琢夫氏より東京市下水道計畫及び三河島處分場施設の概要に就き説明を受け、東京市下水道課長高橋甚也氏の挨拶があつて場内の見學に移る。沈砂池より順次濾格、汚水唧筒、沈澱池、曝氣槽を見學し、東京市考案の新しい設計を以て目下工事中の第二沈澱池の設備を見學、次で濾床、最後沈澱池、汚泥槽、送泥管等場内施設全般に就き詳細に亙り夫々東京市役所係員の説明を受けながら午後4時見學を終つた。隅田川畔に特に設けられた亭に於て茶菓の饗應を受け小遣後解散す。

第31班、東京鉄道局川崎發電所 4月8日午前9時20分集合、参加人員20餘名、9時20分久世主任より同發電所の概要につき次の如き説明があつた。

燃料消費量 1日約600噸、1日發生電力量730000 K.W.A.、ボイラー8基、發電機25000キロ2臺、20000キロ1臺(豫備)、電圧6600V. 1キロ當り約1錢(之の内燃料費80%)

所内見學は9時30分より2班に分れてベルト・コンベヤーによる石炭輸送設備からボイラー室、タービン發電機室、配電盤、変圧機室等を見學し午前11時終了した。

第37班、横濱港 4月8日午後1時横濱港西棧橋際に集合、一行20餘名は横濱土木出張所差廻しの2隻のランチに分乗し、土木出張所並に市役所より横濱港に關するパンフレットの寄贈を受け、近藤港灣課長、黒田技師より横濱港に就てのお話を承り、ビール茶菓の饗應に預り乍ら内外貿易地區を一巡し、内防波堤を出で外防波堤に沿ひ埋立第一、二、三地區の工場地帯の隆盛振を舷側に眺め、川崎滿鉄埠頭附近より逆行して同2時50分川崎三井物産埠頭に上陸、同事務所より埠頭案内書の寄贈を受け同所の貯炭埠頭の偉觀を見た。吉村惠吉氏は參會者を代表し、關係の方々に謝辭を述べられた茲に本見學は多大の收穫を得て4時終了した。

この外4月6日及び7日の午後6時より仁壽講堂に於て通俗講演會が開かれ、本會よりは平山復二郎君が“とんねるの話”に就て活動寫眞を映寫して土木事業の壯快なる所を一般市民に理解せしめられた。斯くして5日間に亙る第2回工學會大會は第2回大會に比し實に異例の躍進を示して盛會裡に終了した。

會 告

春の日歸リエクスカーション!! (雨天中止)

昭和 11 年 5 月 10 日 (日曜日) 箱根, 熱海間自動車専用道路及宇佐美隧道 (網代口) 工事の視察旅行會を催します, 奮て御参加下さい。

集合場所及日時 5 月 10 日午前 11 時 20 分小田原驛前へ集合
行 程 午前 11 時 30 分より自動車にて箱根, 熱海間の自動車専用道路をドライブ嵐ノ湖畔にて少憩晝食をなし, 宇佐美隧道網代口工事を視察して午後 4 時 30 分頃熱海温泉場に到り解散とす。

會 費 金 3 円 50 錢 (汽車賃自辦) 自動車賃及晝食料

有志懇親宴會 懇親宴會を熱海温泉聚樂に於て催します多數有志の御参加を希望致します。

會 費 金 5 円

○會費は集金郵便その他の方法にて後日頂戴致します, 5 月 5 日までに御申込み下さい。

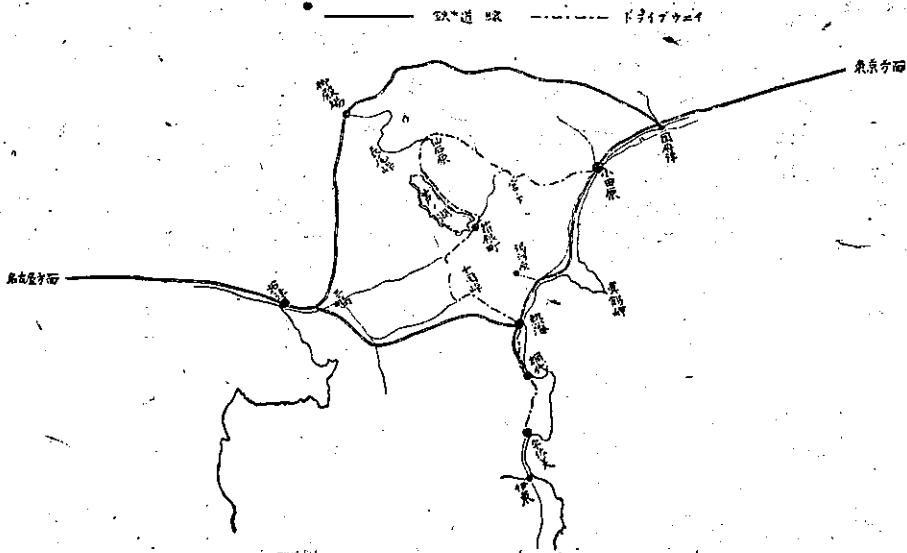
注 意

宇佐美隧道工事の坑内視察御希望の方は「シャツ」並に「サル又」等の着替を御用意下さい。

参 考

歸路の汽車時刻熱海驛發: 東方面行 午後 5 時, 午後 7 時 50 分, 午後 8 時 03 分
西方面行 午後 5 時 05 分 (米原行), 午後 8 時 21 分 (岡山行)

土 木 学 會



會 告

講演會開催通知

日 時 昭和 11 年 4 月 30 日 (木曜日) 午後 5 時

會 場 帝國鐵道協會 (丸ノ内 3,4)

講演者及演題 ニューヨーク・ハドソン及イースト・リバーに於ける

「シールド」工法に就て

エル・アール・クラフト君

晩 餐 會 講演終了後同所に於てクラフト君招待晩餐會を催します、
多數有志の御出席を希望致します。

晩餐會費 金 3 円 (當日御持參のこと)

土 木 学 會

御住所不明會員に就て御願ひ

下記諸君は転居先の御通知がないため、會誌の配布を始め、その他の諸通信が出来ませんのは誠に遺憾であります。どうぞ知人の方は御手数恐入りますが、御本人に御注意下さるか、本會にその住所又は勤務先を御知らせ願ひます。

會 員

荒川 參太郎君
轟 増能君
丸林 筑郎君
栗田 益吉君

稻葉 彌吉君
張 惟和君
村田 清君
古賀 亮一君

木村 貫一郎君
陳 發榛君
安西 榮太郎君
久保田 豐君

小林 源次君
藤原 讓君
山本 保之助君

准 員

和泉 高殿君
田中 武次君
大森 鶴吉君
菊池 三吉君
野口 金太君
田代 岩平君
高瀬 太吉君
矢野 鷹雄君
丹羽 賢象君
濱崎 禎四郎君
水原 譽文君
山田 政次郎君
多田 安三郎君

池田 乙次郎君
坪井 基君
佐藤 興吉君
栗田 忠治君
萬 斯選君
福 島保君
高橋 理三郎君
吉見 胤隆君
吉田 二億君
平本源 太郎君
宮田 肇君
横田 清治君
濁川 武雄君

池田 角太郎君
小川 彌一郎君
徐 三善君
小林 義雄君
關 佳夫君
船橋 貞一君
武田 惣一郎君
中野 順太郎君
袁 汝誠君
藤村 禮士君
村田 勝次君
石原 三郎君
長尾 健一郎君

柿崎 景久君
緒方 政雄君
萩原 官六君
田所 要吉君
會 我進君
山尾 茂夫君
本橋 二郎君
難波 壽一君
劉 作檀君
城内 清太君
片岡 幡君
齋藤 賢策君

會 告

昭和 11 年 4 月 13 日

土 木 学 會

理事 井 上 秀 二
同 平 井 喜 久 松
同 辰 馬 謙 藏

定款改正に基き増員常議員 6 名選舉投票の結果當選者下記の通り定款第 41 條に依り報告す。

投票人員 635 名

當選	562 票	宮 本 武 之 輔 君
同	533 票	關 信 雄 君
同	518 票	沼 田 政 矩 君
同	513 票	吉 田 直 君
同	512 票	後 藤 茂 君
同	500 票	立 花 次 郎 君
次點	20 票	井 上 隆 根 君
	16 票	金 子 源 一 郎 君
	16 票	高 橋 嘉 一 郎 君
	10 票	阿 部 美 樹 志 君
	10 票	岩 崎 富 久 君
	10 票	内 村 三 郎 君

以下略す

定 款 規 則 の 正 誤 訂 正

定款第 10 條及規則第 9 條を主務官廳の注意に依る訂正、並に規則第 15 條の正誤下記の通り

定款 第 10 條 (訂正) 本會=特別員賛助員准員及學生員ヲ置クコトヲ得

特別員ノ代表者ハ會員ト同等ノ權利ヲ享有ス

特別員ノ資格及義務並ニ賛助員准員及學生員ノ資格及權利義務ハ土木學會規則ヲ以テ之ヲ定ム

規則 第 9 條 (訂正) 賛助員准員及學生員ハ會務ノ議定ヲ除ク外會員ト同等ノ權利ヲ享有ス

規則 第 15 條 (正) 會長副會長及常議員ノ選舉ハ本會所定ノ無記名連記式投票用紙ヲ用ヒ毎年 1 月末日迄ニ

本會ニ到達スル様投票スルモノトス

投票ハ常議員會ニ於テ開票シ其結果ヲ通常總會ニ報告スルモノトス

第 15 條 (誤) 會長副會長及常議員ノ選舉ハ本會所定ノ無記名連記式投票用紙ヲ用ヒ毎年 1 月末日迄ニ

送達シ常議員會ニ於テ之ヲ開票シ其結果ヲ通常總會ニ報告スルモノトス

會 告

例年の通り發明獎勵費交付（交付規則大正6年10月13日）
（農商務省令第28號）に關し特許局長官よ

り下記の通り照會がありましたから御希望の向は同局に付詳細御問合せ下さい。

記

昭和 11 年 3 月 31 日

特 許 局 長 官

社 團 法 人 土 木 学 會 御 中

發 明 獎 勵 費 交 付 に 關 す る 件

優秀なる發明を誘掖獎勵する爲從來發明獎勵費を交付し來れることは已に御承知の通に
有之昭和 11 年度に於ても豫算の範圍内に於て發明の研究費、見本製作費又は試験費の
補助可相成筈に付貴會關係者に此の旨可然周知方御取計相煩度此段得貴意候也

追而右申請は地方長官を經由し 5 月末日迄に差出す様致度此段申添候

記 附 發明獎勵費交付規則は本誌第 20 卷第 4 號參照

既刊會誌殘部内譯

(* は殘部有るものを示す)

卷	號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額(1部)
5		*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.00
6		—	—	—	—	—	*	—	—	—	—	—	—	1.00
7		—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	1.50
8		*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
9		*	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
10		—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
11		—	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
12		—	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
13		—	*	*	—	—	*	—	—	—	—	—	—	2.00
14		*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
15		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
16		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
17		*	*	*	*	*	*	*	*	*	—	*	*	1.00
18		—	—	*	*	*	*	*	*	*	*	*	—	1.00
19		*	*	*	*	—	*	*	*	*	*	*	*	1.00
20		*	*	*	*	—	—	*	*	—	—	—	—	1.00
21		—	*	*	*	*	—	—	*	*	*	*	*	1.00
22		*	*	*	—	—	—	—	—	*	*	*	*	1.00

- 第 20 卷第 12 號 (創立 20 周年記念號) 1.50
- 第 21 卷第 7 號 (會誌索引付) 1.30
- 東京市内外交通に関する調査書 3.00
- 震害調査報告書(1, 2, 3) 18.00
- 応用力学聯合大會講演集 1.00
- 鉄筋コンクリート標準示方書 0.50
- 同上 解説 1.00
- 土木工学論文抄録 3.50
- 土木學會誌索引(第 1 卷第 1 號—第 20 卷第 12 號) 0.50

上記殘部會誌御希望の場合は所要金額を振替口座東京 16628 番に拂込用紙通信欄にその旨記入請求せられたし。

廣 告 料

普通廣告	1 回 1 頁	35 円	1 回半頁	20 円
指定廣告	{裏表紙 3 面對 向及廣告初頁}		1 回 1 頁	40 円
			1 回 1 頁	70 円
		色アート	1 回 1 頁	60 円

- 指定廣告は凡て 1 箇年継続申込のものに限り取扱ふものとす
- 會員自身の廣告に對しては總て上記料金の割引とす
- 同一廣告の連続掲載申込に對しては 1 年 4 回以上 1 割引とす
- 廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

會員転居転勤の場合の注意

會員の御転居又は御転勤の場合は即時明細に御通知下され度し。

會費納付に付き注意

會 費	會員種格	會費年額	第 1 期分 (1 月～6 月)	第 2 期分 (7 月～12 月)
	會 員	金 12 円	金 6 円	金 6 円
	准 員	金 9 円	金 4.50 円	金 4.50 円
	学生員	金 6 円	金 3 円	金 3 円

新入會者は月割計算とす。

納 期 第 1 期分：3 月 第 2 期分：9 月

納付方法 集金郵便を差向けます（旅行等にて御不在の場合も拂込に支障なき様御配慮下さい）。

振替郵便御利用の場合は振替口座東京 16828 番へ願ひます。

朝鮮滿洲の一部等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末迄爲替その他の方法に依り御送金相成たし。

會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知下されたし。

未納の場合 集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は會費滞納者として遺憾ながら定款第 2 章第 14 條第 1 項に依り會誌の配布を停止せられます。

會誌未着の場合の注意

會誌は毎月 25 日に発行し漏なく配布致しますから、未着の場合には一応本會に御照會下さい。発行後數ヶ月経過しての照會は時に殘部皆無となり配布不可能の場合があります。

DOBOKU-GAKKAI-SI.

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY.)

VOL. XXII, NO. 4, APRIL, 1936.

CONTENTS.

	Page
Proceedings of the Society,	25
Papers.	
On the Creeping of Rañ.	
<i>By Syunichi Maebasi, E. E., Member.</i>	395
On the Drift Sands at Urado Harbour, and the Construction Plan of the Mouth.	
<i>By Syôyû Yamamoto, C. E., Assoc. Member.</i>	411
On the Accuracy of the Skelton Surveying.	
<i>By Hifumi Kagami, Assoc. Member.</i>	449
Discussions.....	453
Abstracts of Selected Articles.	471
Patent News,	505

OFFICE

No. 6, 3-TYÔME, MARUNOUTI, KÔZIMATI-KU, TÔKYÔ, JAPAN.
